

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970300493		
法人名	医療法人藤和会		
事業所名	グループホームなごやか		
所在地	奈良県大和郡山市北郡山町310		
自己評価作成日	平成23年1月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-nara.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人カリア		
所在地	大阪市天王寺区堀越町1-1 四天王寺堀越ビル		
訪問調査日	平成23年1月27日	評価結果決定日	平成23年2月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人藤和会藤村病院が母体であり、急変時はすぐに対応でき、家族様、利用者様の安心感となっている。
バリアフリーはもちろん、対面キッチンになっており、利用者様も一緒に料理など出来る様になっている。1年を通してレクレーションも行い、その中でも近所の子供会の踊りが人気があります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近鉄郡山駅より数分の新旧の住宅に囲まれた比較的静かな環境にあります。
母体が医療法人のため、医療面でのバックアップ体制が整っていることを、心強く感じている利用者・家族も多く、説明・同意の上、終末期から最後の看取りまでもグループホームでと望まれる方も多くいます。
入所前からの馴染みの関係の継続や使い慣れた家具等の部屋への持ち込み等、利用者の居心地に配慮したケアを大切に生活支援を実践しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果	項目	取り組みの成果
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の名前である「なごやかな生活を」が理念になっています。 職員一同、日々のサービスにいかすようにしています。	施設の名前でもある「なごやかな生活を」という理念を目につきやすい場所に掲示し、管理者・職員が協力し、理念に沿った「ゆったりとした」「強要をしない」支援ができるよう努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年に2～3回、地域の子供会の方に来ていただいている。 近くの神社の祭りにも参加しています。 又、地元の中学生の職業体験実習も毎年実施しています。	地域の子供会との交流会や秋祭り、自治会のクリーン活動などに、利用者・職員一緒に積極的に参加しています。	年中行事の他にも、自治会等との普段の生活の中での、より日常的な関わりが少しずつでも増えるよう努めていくことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話での問い合わせ、見学、入所相談に関しては、その都度対応し母体である医療法人のネットワークをいかした助言も行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、調整中	長年調整中の状況が続き、現状としては一度も開催されていないが、平成23年2月中の開催を目指して、地域や行政担当者と現在具体的に打ち合わせを進めています。	現在計画中の推進会議が予定通り実施した上で、今後も前向きに定期開催を続けることにより、地域や行政等との相互理解や意見交換を深め、利用者のサービス向上に活かしていくことが望まれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と定期的に行き来する機会はないが、必要な手続き申請がある度に相談、指導を受けています。	現状としては、定期的や積極的な関わり合いはみられないが、計画中の運営推進会議をきっかけに、今後は連携を深めていく予定をしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、虐待防止等の研修に参加している。	身体拘束や虐待防止等の研修に参加している。玄関の扉は、「一般家庭でも最近では玄関を施錠している」ことや、リスク管理を重視して、現在は常時施錠しています。	利用者の意思でない施錠については、事業所としても課題に挙げてますが、決して「不可能」ではなく、工夫や試みにより、具体的なリスクの把握、それらに必要なケアの検討等、「前向き」に取り組む体制を整えていくことが望まれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の意識の徹底を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体での研修会や学習会は実施できていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明は、管理者及び介護支援専門員、事務局の者が行っています。 家族の疑問や要望をお聞きし、説明を行い、同意を得る様に行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	その都度傾聴し、対応をしています。	利用者や家族の意見や希望については、生活の中でその都度傾聴し、応えるようにしているが、苦情や要望は最近はありません。	苦情や要望がないことに疑問をもち、前向きに捉えて内容や対応を記録に残し、職員間で共有する体制作りや、家族等が遠慮なく要望等を言える雰囲気作りを進め、家族等が知りたいと思われる現状の説明の機会作り等にも積極的に努めていくことを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティングを開催し、話しあいの場を設け対応しています。	月に1回のスタッフミーティングや法人として2ヶ月に1回の会議の機会を設け、管理者も普段から職員が意見や提案等を出しやすい雰囲気作りを努めています。	職員の昼休憩の取り方等について、管理者や法人の立場からも改善に向けた検討が、積極的に行われるよう期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々のスタッフが不公平感なく仕事に取り組めるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	奈良県主催の研修等には、毎年参加してもらっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県主催の研修等を通して、他施設との交流をはかり、質の向上に生かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から入所に至るまでに本人の意思を尊重しています。 本人から聞き取りが出来ない時は家族様を交えて話しをしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記と同様、本人様と同席して、出来るだけ話しを聞くようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の際、管理者のみならず、医師・看護師・管理栄養士・理学療法士・作業療法士・介護支援専門員等の支援スタッフと情報共有しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方は人生の経験豊かな先輩である。 入居者の方の得意とすることがあれば、手伝っていただいたり、日常の中で入居者。職員が支えあったり、学びあったりする場面がある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、ご家族の話しを伺いながら、グループホーム内での過ごし方や状態などについて説明し、相談をしながら考えていきます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前に住んでいたご近所の方、お友達が入所前からの知人や友人の訪問の他、信仰を大切にしている方が定期的に教会に通えるような支援も積極的に行っています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	随時、職員が間に入って調節をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院へ入院される方もいらっしゃるが、関係は継続しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	見守りの中での気付き、入居者の方との会話の中で、本人の思いやりや要望を聞き、実現できるよう努めています。	日々の生活やケアを通して個々の思いや意向を把握するよう努めています。	引き続き、明確化・共有化された課題に対して、より良い支援や質の改善が、職員のチームワークを活かして進められるよう期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に基本情報シートに記入していただきます。入所後も、面会時に色々情報を教えてもらい、入居者の方の理解を深めていくようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各個人の記録に一日様子を記入し、毎日それぞれを申し送りをしています。看護師も日常的健康管理を支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員が中心となって、医師・看護師・職員スタッフ・本人家族と相談し、意見を反映させています。	介護支援専門員によって、アセスメント・計画・モニタリング等に関する記録は、個別に整えられています。	計画書の様式に、「説明と同意」に加え「計画書の受領」が分かる文言の追加と、家族・利用者を含めたカンファレンスの定期的な実施と、記録の整備が望まれます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の日誌に記入し、変化等があればミーティングや申し送り時に話しあって検討し、即対応に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の方の要望があれば、グループホームのみならず母体の医療法人の組織を利用して多機能的な支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護支援専門員等からの情報を得ながら対応し、支援を行っております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	藤村病院の医師とは、365日24時間連携体制で対応しています。	元々母体の病院をかかりつけ医としている利用者も多く、24時間のサポート体制ができています。入居時に希望も聞き、他の病院等をかかりつけ医にすることも可能で、その際も同様の連携体制をとることができます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	藤村病院より看護師が定期的に訪問しており、日々の特変時にも迅速に対応がとれています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	藤村病院との連携はとれています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化や看取りについて、家族様に同意をいただいて、終末期には藤村病院からのサポートを受けながらチームで支援を行っています。	入居時に重度化や看取りについて説明して希望を聞いた上で、終末期を迎えるにあたっては、家族・ご本人から再度意向を確認し、支援内容の説明・同意に基づき、母体の病院等と連携しながらの支援に取り組んでいます。実際に多くの方がGHでの看取りを希望し、実施されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体制を事務所内に貼り出しており、対応はできております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災予防・避難訓練を実施しています。	年に2回火災予防・避難訓練を計画し、実施され、記録も整備しています。	今後は、消防署立ち会いや地域の方と協力した訓練を計画に入れる等、万が一の際に地域の協力が得られやすい体制作りが進められるよう期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いに関しては職員に徹底しています。 入所者の方を尊重し尊厳を保つような接し方を心がけています。	管理者は接遇研修や日々の指導を通して、利用者個々の人格の尊重や誇り・プライバシーへの配慮が、周知徹底されるよう努め、実際の職員の話し方等にも配慮がみられます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入所後、年月が経過し利用者の方も重度化が進み、本人の意思決定が困難になってくるが、できるだけ本人に説明し家族の協力を得て不快のない生活が送れるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間と入浴の時間は決まっているが、その他は出来る限り本人の希望に沿うようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近所に美容院、理髪店があるので、行ける方にはmスタッフ同行又は家族様と一緒に行っていただいています。 普段の着るものについても、スタッフが支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手伝い出来る方にはお皿に盛り付けなどを手伝ってもらい、食事は職員と一緒に和気あいあいの雰囲気です。	対面式のシンクが設置され、盛付けや下膳等もできる方と一緒にいる等、みんなで楽しくおいしい食事になるよう支援しています。	調理や準備、献立等に対して、利用者の「できること・したいこと」について個々の再アセスメントや嗜好調査を行いながら、利用者が「ちょっとしたこと」にでも積極的に関わられるような配慮や支援が増えていくことを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事摂取量は日誌に記録しています。 水分補給はこまめに行っています。 食事メニューの内容は、藤村病院の管理栄養士と連動しながら決めていきます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後可能な限り自力で行ってもらい、職員がチェックするようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを観察し、尿意のない入所者の方にはトイレ誘導を行っています。立位のとれる入所者の方は、パンツ使用でトイレ誘導を行い、オムツ使用しない様に行っています。	個々の排泄間隔等をアセスメントし、尿意の不明確な方についても、トイレでのケアや実施に向けた支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動の働きかけ以外にも水分量の確保、食事提供の工夫をころがけています。また、医師や看護師の指示に従っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は東西両ユニットで曜日が決まっており、週3回入浴していただいています。希望があれば曜日以外でも入浴は可です。	基本的にはユニット別に曜日を決め、週に3回の入浴の機会を設け、個別の希望に対しても他の日でも入浴できるよう支援しています。	徐々に利用者の重度化が進む中、一般浴槽に入れない方には、シャワー浴のみ実施している点について、浴槽に浸かる楽しみ等個々の思いに沿った支援ができるよう、設備の工夫や体制の検討等を継続していくことを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室は個室なので、一番リラックスできる場所です。なかなか眠れない方にはホットミルクなど提供し、医師と相談をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	藤村病院との連携はとれています。又、病院の薬剤師に副作用等の指導を受けています。変更があった場合、申し送りノートに記入し、スタッフ全員が把握できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別対応をしています。スタッフと共に配膳の準備をしたり、片づけ、洗濯物のたたみなど、入所者の方の能力に合わせています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物等にスタッフと一緒に出かけたり、スタッフと一緒に昼ごはんを外食したりしています。天気の良い日は近くの神社まで散歩をしています。	近くの神社への道が散歩コースになっていたり、個別に寿司屋等への外食に出かける機会を設ける等の支援を行っています。	季節によっては、より日常的な外出の機会を増やす等、利用者の体調も配慮しながら、「より開放的な」支援に努めていくよう期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様と相談して、少額のみ所持していただいておりますが、現在の入所者の方はほとんど金銭管理はしてられません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入所者の方から電話の訴えがあれば、その都度対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、玄関周りに花を配置しています。 状況に合わせてひな壇、音楽等季節感の演出を心がけています。	住宅地にありながら静かな環境で、屋内も光や音が優しく、臭いにも配慮しています。 加湿器の設置の他、利用者の写真や季節ごとの装飾も共有スペースにみられ、季節感等への配慮もしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを置いて、TVを見ながらくつろいでいただけるよう配置をしています。 テーブル・椅子等状況に合わせた対応をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と家族と相談しながら居室環境の支援を行っています。 タンス等なじみの家具を持ち込んでいただいています。	明るく清潔に保たれた居室には、家具や仏壇等使い慣れた物の持ち込みも自由で、家族や配偶者の写真を飾る等、利用者の居心地に配慮した工夫や支援を行っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がわかりにくい方用に目印をしています。居室等に表札をつけています。		